



1 明北小 1 年生活科『たなばたまんじゅう作り』 7 月 7 日（火）



上手にできたよ！ たなばたまんじゅう！！ （1 学年だよりから）

7 月 7 日(火)に七夕まんじゅう作りを行いました。「えべや」の 3 名の皆さんに作り方を教えていただきながら、楽しくおいしい七夕まんじゅうを作ることができました。一つ一つの行程をとってもわかりやすく教えていただいたので、子どもたちも戸惑うことなく活動を行うことができました。重曹や酢を入れると、サイダーのようにシュワシュワと泡が出る様子には、みんな驚いていました。生地をこねたり、あんこを丸めて生地に包んだりする作業もとても上手にできました。自分の分は自分で作ったので、中にはスライムみたいな形やユニークな形にした人もいました！出来上がったおまんじゅうは、一つはその場で食べ、もう一つは 5 時間目が終わった後におやつとして食べました。2 つも食べられるかな？と心配しましたが、みんな「おいしい」と言いながらパクパクと食べていました。

安曇野地域ならではの七夕の食べ物を作ったり、味わったりすることができて、よい体験ができました。

2 明北小 4 年総合『(明科)潮神社にゴミ箱を設置しよう！』7 月 10 日(金)



4 年生は、総合的な学習の時間に、『明科をきれいにしよう！』の願いのもと、潮神社にゴミ箱を設置する活動に取り組んでいます。この日は、板をのこぎりで切ったり、竹の枝を切り落としたりする作業を行いました。竹は、「明科ちくりんず（押野山を拠点に、放置竹林の整備や竹を使ったクラフトづくりなどの活動を行っている）」の方と関わりをもち、山から切り出してきたものです。夏休み後に、材料を組み立てて完成です。

3 明北小4～6年『クラブ活動の立ち上げ』 6月

学習指導要領第6章の第2〔クラブ活動〕の1「目標」に、「異学年の児童同士で協力し…」という文言があります。これは、学級や学年の枠を超えて、同好の児童が自治的に組織したクラブにおいて、よりよく交流したり、自己の役割をはたしたりするなどして協働して目標を達成しようとすることを示しています。

数年前から、明北小では、最高学年である6年生がやりたいクラブを立ち上げ、4・5年生にプレゼンをして、一緒に楽しむ仲間を募っています。先生方も、6年生が立ち上げたクラブの中で担当を決めています。6月16日(火)に第1回クラブが行われました。2学期には、明科高校生の小学校クラブ参加も予定されています。

クラブ活動プレゼン (5学年だよりから)

6年生がクラブを立ち上げ、4・5年生に説明がありました。真剣に聞いて、終わった後…「えー、ウォーキングクラブないのー?」「かんだち山クラブがよかったのに…」という声。毎年6年生が立ち上げ、クラブ員を募るので、自分にとって魅力的なクラブがあったりなかったり…。

ここで、どのクラブも選ばない、という選択肢もあります。けれど、せっかく6年生が考えてくれたクラブなので、ちょっとだけでも興味があるものを選んでやってみる、という選択肢もあると思いました。体育のハードル走の時に「初めは苦手だと思っていたけど、やってみたら楽しかった」という子がいました。子どもたちは、食わず嫌いというか、新しいことに対して一歩引いてしまうことがあるのだと思います。そして、自分1人だと心細くて不安でも、友だちと一緒にならやってみる勇気が出る、というのもまた子どもたちです。私は、自分なら考えつかないようなクラブに入って活動してみると、その子の世界が少し広がるのではないかと考えました。そして、それは間違いなく、学校だからできる大切な体験の一つになると思います。それなので、子どもたちに、上記のような私の考えを伝えました。子どもたちは子どもたちなりに考え、何かしらのクラブを選択していました。

4 明科中3年総合『あやめタイム 全校縦割り探究発足に向けて』 7月

通信 No.31 にも記しましたが、2学期発足に向けた3年生の取り組みです。

あやめタイム進行中! (3学年だよりから)

3年生が取り組んでいる総合的な学習の時間「あやめタイム」では、現在、私たちが暮らす明科の町をより良くするための探究活動を進めています。この活動には、地域の「ふるさとづくり応援団」の皆様にも多大なるご協力をいただいています。

7月2日の活動では、そのキャッチコピーを絵に描いた餅で終わらせないために、「自分たちは、具体的に何ができるのか」をさらに深掘りし、今後のアクションプラン(具体的な計画)を練り上げました。生徒たちは「地域のために」という当事者意識を持ち、現実的かつクリエイティブなアイデアを出し合っています。この具体的な計画は、自分たちだけのものではありません。1学期の終わりには、後輩である1・2年生に向けて各班からの発表会を行います。3年生が自ら考えた明科の未来図を後輩たちに提示することで、学校全体、そして地域全体へと探究の輪を広げていく第一歩となります。